

令和二年(2020年)9月16日(水) - 18日(金)

フィールド科学演習の一環として「フィールド科学演習 - 干潟の生物多様性を観察する -」が、上記日程で3日間ハチ干潟(竹原市)で行われました。



A: 実習生が到着する前にアナジャコとハクセンシオマネキを採集するTAら。 **B, C:** 採集されたアナジャコ(B) とハクセンシオマネキ (C)。 **D:** それらを観察する実習生ら。
E: アナジャコの巣穴の模型を使用して、生態について実習生に説明する 大塚教授。 **F:** アナジャコの巣穴の模型を観察する実習生ら。



A: ハクセンシオマネキの行動を観察する学生ら。 **B:** 干潟生物の保全を目的として設置された看板について説明を行う近藤助教. 本看板は、今年3月に広島大学と行政、地元団体の協力により設置された。
C-F: 干潟で自然に生息するカブトガニを手に乗せ観察する実習生ら。



A, B: 干潟を散策して、カブトガニ以外干潟生物を採集する実習生ら。 **C:** 散策中、実習生が採集した生物について質問を受け、それについて解説を行うTA。
D: 実習の最後に、実習生を集め採集された生物と干潟の役割について解説を行う大塚教授。 **E, F:** 教員の解説を聞きながら、干潟生物を観察する実習生ら。

* カブトガニを含め採集した生物は、実習終了後、元の場所に戻されました。本実習は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、適切に行われました。